

公益財団法人 天文学振興財団  
令和2年度事業報告  
令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

1. 研究支援事業の概要（公1）

定款第4条に沿った公益目的事業を展開しました。

令和2年度の助成事業としては、[1]国際研究支援事業では、コロナ禍により研究活動が大きな制約を受けたこと、国際交流や国際研究集会が開催されてもオンラインでの開催になったこと、などから申請がありませんでした（0件）。[2]普及・啓発支援事業では15件を採択いたしました。1件辞退があり、14件の助成を行いました。

[1] 国際研究支援事業

[1]-1 研究に対する助成

（単位：円）

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	辞退件数	不採択件数	備 考
第1回公募	0	0	0	0	0	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	0	

[1]-2 国際交流に対する助成

第1回公募	0	0	0	0	0	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	0	

[1]-3-1 国際研究集会開催に対する助成

第1回公募	0	0	0	0	0	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	0	

[1]-3-2 国際研究集会参加に対する助成

第1回公募	0	0	0	0	0	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	0	
小計	0	0	0	0	0	0	

合 計	0	0	0	0	0	0	当初予算額 合計320万円
-----	---	---	---	---	---	---	---------------

[2]普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	辞退件数	不採択件数	備 考
<b>第1回公募</b>	<b>11</b>	<b>1,991,288</b>	<b>10</b>	<b>1,117,757</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	
天文学者へのオーラルヒストリー	1	894,000	1	500,000	0	0	
もしも君が社の都で天文学者になったら2020(もし天2020)	1	76,916	1	76,916	0	0	
天体観測会、市民講座、ジュニア教室	1	51,668	1	51,668	0	0	
天体望遠鏡で月と星を見よう2020	1	529,531	1	250,000	0	0	
2020夏の星空観察会	1	57,000	1	57,000	0	0	スターウィーク2020
出張星空観察会	1	20,350	1	20,350	0	0	同上
2020夏 星空案内 in西宮ガーデンズ	1	38,513	1	38,513	0	0	同上
七夕星まつり・スターウィーク特別夜間観望会	1	90,000	1	50,000	0	0	同上
ライトダウンin東広島2020	1	140,000	0	0	1	0	同上、助成採択後辞退
第18回広島星まつり～100点満天の夏休み～	1	80,000	1	60,000	0	0	同上
スター・ウィーク実行委員会	1	13,310	1	13,310	0	0	同上 助成件数6件 助成額計 239,173円
<b>第2回公募</b>	<b>3</b>	<b>1,804,270</b>	<b>3</b>	<b>1,624,270</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
イミロア天文学センター	1	1,000,000	1	1,000,000	0	0	
フラッシュスベクトルの保存と撮影法の普及・啓発	1	304,270	1	304,270	0	0	
「おうちでダジック」オンライン	1	500,000	1	320,000	0	0	
<b>第3回公募</b>	<b>1</b>	<b>30,980</b>	<b>1</b>	<b>30,980</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
天体観測会、大人向け講座、講演	1	30,980	1	30,980	0	0	
<b>合 計</b>	<b>15</b>	<b>3,826,538</b>	<b>14</b>	<b>2,773,007</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	当初予算額 320万円

[1]+[2] 国際研究支援事業並びに普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	辞退件数	不採択件数	備 考
国際研究支援	0	0	0	0	0	0	当初予算額 320万円
普及・啓発支援	15	3,826,538	14	2,773,007	1	0	当初予算額 320万円
<b>合 計</b>	<b>15</b>	<b>3,826,538</b>	<b>14</b>	<b>2,773,007</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	当初予算額 640万円

## 2. 令和2年度研究支援事業の詳細

### [1] 国際研究支援事業

コロナ禍により研究活動が大きな制約を受けたこと、国際交流や国際研究集会が開催されてもオンラインでの開催になったことから、国際研究支援事業の助成は、研究に対する助成、国際交流に対する助成、国際研究集会開催および参加に対する助成のいずれも申請なし。

### [2] 普及・啓発支援事業

普及・啓発支援事業の助成は以下のとおり。

第1回公募（スターウィーク協力イベント以外 申請：4件、助成：4件）

申請額計：1,552,115円 【助成額計：878,584円】

（スター・ウィーク協力イベント 申請：7件、助成：6件、辞退：1件）

申請額計：439,173円 【助成額計：239,173円】、辞退額計：100,000円

第2回公募（申請：3件、助成：3件）申請額計：1,804,270円 【助成額計：1,624,270円】

第3回公募（申請：1件、助成：1件）申請額計：30,980円 【助成額計：30,980円】

**【年度計】申請：15件、助成：14件、辞退：1件**

**【年度計】申請額総計：3,826,538円 【助成額総計：2,773,007円】、辞退額総計：100,000円**

#### [2] 第1回公募

① 事業名：「天文学者へのオーラルヒストリーによる現代日本天文学史の基礎調査」

申請責任者：高橋 慶太郎（熊本大学 教授）

実施期間：2020年7月～2021年3月

成果報告：新型コロナウイルスの感染の拡大のため本年度はインタビューを行うことができなかったが、支給された経費でこれまでに行ったインタビューの書き起こしを依頼し、今後公表するための準備をした。天文月報にて海部宜男氏のインタビューを2020年4月号から2021年4月号までの13回に渡って掲載した。  
（報告書原文）

助成額：1件 500,000円

② 事業名：「もしも君が杜の都で天文学者になったら2020（もし天2020）」

申請責任者：服部 誠（東北大学大学院理学研究科天文学専攻 准教授）

実施期間：2020/11/23～2020/12/28

実施場所：東北大学理学部・仙台市天文台

参加者数：12名

成果報告 : 作文審査で選ばれた沖縄から北海道までの全国12名の高校生・高専生が受講した。コロナ対策としてzoomを利用して完全リモートで実習を行った。4名1組の3つの班に分かれて、受講生自ら研究課題を立案し、観測計画を建てて仙台市天文台の口径1.3mの“ひとみ”望遠鏡で観測を行った。インターネット望遠鏡の機能を利用して自ら望遠鏡を操作して得られる天体画像が画面に現れるたびに受講生から感嘆の声が上がった。オンラインならではの全国の天文学者にご協力いただいた宇宙何でも相談会が好評だった。最終日の研究成果発表会では、受講生達のレベルの高さに感嘆の声があがった。(報告書原文)

助成額 : 1件 76,916円

③ 事業名 : 「天体観察会」、「市民講座」、「ジュニア教室」

申請責任者 : 樺山 淳司 (関西で星を学ぶ会 代表)

実施日 : ①2020年9月27日、②2020年10月10日、③2020年11月28日、④2020年12月13日、⑤2020年12月20日、⑥2021年1月24日、⑦2021年2月20日

実施場所 : ①・③・⑤大阪市住吉区 浅香中央公園、②・④・⑥・⑦大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館

参加者数 : ①一般参加者約150名、スタッフ6名、②受講者7名、スタッフ2名、③一般参加者約90名、スタッフ6名、④受講者8名、スタッフ2名、⑤一般参加者約60名、スタッフ5名、⑥受講者7名、スタッフ2名、⑦受講者7名、スタッフ2名、

開催報告 : (9/27) 今回は晴天となり、すばらしい星空を見せることができました。月は上弦の月と満月の間でクレーターを見せることができました。土星、木星が良く見えて、後半には火星が見えて大成功でした3月、5月と新型コロナウイルス感染症の対策のため中止、7月は雨天中止となっていたので9月は開催できて良かったです。

(10/10) 『天王星、海王星を学ぼう』と題して天王星、海王星について学習した。初めて受講した人のために、「オープニング」に関西で星を学ぶ会の紹介をおこなった。「天体観察会の基本」で星を見るうえで、基本的なことを説明した。「惑星を学ぼう」で太陽系の惑星の紹介して、簡単な分類や見た目の動きを説明した。「惑星の比較」では太陽系の惑星のデータ表を作成して惑星を紹介した。「天王星を学ぼう」では天体望遠鏡での天王星の見え方、天王星観測と探査の歴史、天王星の内部構造を学習した。「海王星を学ぼう」でも同様に天体望遠鏡での海王星の見え方、海王星観測と探査の歴史、海王星の内部構造を学習した。

(11/28) 新型コロナウイルス感染症の拡大があるのでマスク着用を参加条件

として、なんとか開催できました。今回は雲が多い中でも、いろいろな星を見せることができました。月は満月の2日前でも、美しいクレーターが見えました。土星、木星が良く見えて、火星も明るく見えました。惑星が雲で見えない時間帯は、二重星アルビレオとすばる（プレヤデス星団）を見せることで多くの人に喜んでもらえました。

(12/13) 『親子天文教室』（'ジュニア向け、初心者）と題して（星座、星）について学習した。「天体観察・初級」では小学校の理科にある「星の日周運動、年周運動」を学習、星の肉眼で見るポイントを説明した。天文シュミレーションソフトで20年12月21日の「土星、木星の大接近」を表示して説明した。星の基本的な知識を始め、プラネタリウムで紹介される星の図形、星座については、その起源、成り立ち、88星座、星座の特徴などをやさしく学び、天文学への理解を深めた。

(12/20) 今回はケーブルテレビ（ジェイコム）の取材が入り、会場にテレビカメラと照明器具が設置される中で天体観察会となりました。（この天体観察会は大阪府で12月25日、26日、27日に繰り返し放送された）西の空のみ雲が多い天気でしたが、幸運にも「土星と木星の大接近」（天体望遠鏡の視界の中に土星と木星の両方が見える珍しい現象）が見えました。（新型コロナウイルス感染防止のため「土星と木星の大接近」をテーマにしなかった。参加者が多く集まりすぎて、三密になることを警戒した。）月は三日月を過ぎて明るくなって、天体望遠鏡で美しく見えました。火星も明るく見えました。

(1/24) 『冥王星を学ぼう』と題して小天体（衛星、小惑星、太陽系外縁天体）について学習した。「天体観察会の基本」星を見る基本、今年の天文現象などを紹介した。「月（衛星）を学ぼう」では地球の月、木星と土星の衛星について学んだ。「太陽系の天体の分類」では太陽系の惑星の分類の変化、惑星と準惑星、小天体（主にエッジワースカイパーベルト、衛星）の定義について学んだ。天体とはなにか？を考える時間帯をつくってから「冥王星を学ぼう」で冥王星について学習した。

(2/20) 『水星、金星を学ぼう』と題して学習した。「水星を学ぼう」では水星を見る機会が少ないことを説明。天体望遠鏡で水星を見る楽しみを伝授した。また、「金星を学ぼう」では、金星の外合、東方最大離角、最大光度での見え方の違いを説明。金星の自転方向が逆向き、自転周期の遅さを学習した。金星の太陽面通過が大気の発見につながり、ロシア（旧ソ連）が熱心に金星探査したこと。金星の大気、地質が地球とは異なる世界であることを伝えた。（以上、全て報告書原文）

助成額 : 1件 51,668円

④ 事業名：「天体望遠鏡で月と星を見よう2020」

申請責任者：伊藤 麗（市民活動団体Zinnia 代表）

実施日：2020年9月26日

実施場所：北神戸田園スポーツ公園（神戸市北区）メイン球場および公園全体

参加者数：130名

成果報告：メイン球場に9台の天体望遠鏡を設置し、月・土星・木星を観望して頂きました。また電子観望にて月を投影し記念撮影をして頂きました。また、公園全体を太陽系に模して「太陽系オリエンテーリング」を実施しました。太陽系を100億分の1の縮尺にし、惑星チェックポイントにて図鑑カードを集めてもらい楽しんで頂きました。（報告書原文）

助成額：1件 250,000円

○スター・ウィーク2020 協カイベントに対する助成 ⑤～⑩ 計 6件

助成額合計：239,173円

全体主催：スター・ウィーク実行委員会

開催期日：令和2（2020）年7月～8月

協カイベント：

⑤ 事業名：「STAR WEEK 2020 夏の星空観察会」

主催者：山中温泉ゆけむり倶楽部

実施期間：2020/6/21～2020/8/7

実施場所：山中山中児童センター・リモート観察会特設会場

参加者数：1200名

開催報告：コロナ禍により地元でも諸事業の中止が相次ぐ中、40年続いた星空銀察会は「リモート配信」という史上初めての形式で行った。職員とボランティアのみで企画を進めるユニークな試みは、地元メディアにも大きく取上げられた。

6月21日の日食をリハーサルとして、7月29日当夜は晴れ間を縫って、月のクローズアップ画像をライブ中継することに成功。

木星、土星やその他の天体はスターウク期間中随時配信した。その間、ライブ動画を整理編集し、7本の作品にまとめた。

8月7日現在、ライブ及び作品視聴者の延べ参加人数は1200に達した。

星空ノートと銀察のてびきは広報やインターネットで呼びかけ参加希望者（広く関心のある方すべて）に来館の上直接渡した。（報告書原文）

助成額：1件 57,000円

⑥ 事業名：「出張星空観察会」

主催者：鳥取天文協会

実施日 : 2020/7/28、7/30、8/1、8/6

実施場所 : 中ノ郷地区公民館、鳥取北中学校第2グラウンド、鳥取砂丘こどもの国、美歎水源地

参加者数 : 251名

開催報告 : 鳥取市内4カ所で、星空観察会を計画し（殿ダムでの観察会はコロナウイルスのため延期となったが、鳥取砂丘こどもの国での観察会が急きょ加わった）、ほぼ晴天に恵まれ、多くの方に土星や木星、おりひめ星など、見ごろの天体を見ていたたくことができました。（報告書原文）

助成額 : 1件 20,350円

⑦ 事業名 : 「2020 夏 星空案内 in 西宮ガーデンズ」

主催者 : 星のソムリエ@西宮

実施日 : 2020/8/29

実施場所 : 阪急西宮ガーデンズ（兵庫県西宮市）

参加者数 : 33名

開催報告 : ・新型コロナウイルス感染症が未だ収束しておらず、イベント開催には一定のハードルがある中、スターウィークにちなんだ8月に、天体観望会を開催できた。

- ・イベント自粛のなか協力施設にとっても久しぶりのイベントとなり、参加者の関心を集めた。人数制限の下での開催であったが、108人分の入場整理券が30分を待たずになくなるほどの盛況ぶりであったことから伺える。
- ・開始後、2回の入替開催が終わったところで、あいにくの雨予報が出たため、ここで中止の判断を下した。
- ・曇り空ではあったが、入場できた計33人の参加者には、月や木星、土星の生の姿を天体望遠鏡を通して、短時間ながら見てもらうことができた。
- ・今回、分身ロボットと一緒に来た人がいたが、息子さんが是非星を見たいとの希望を受け参加したとのこと。ロボットのカメラから、望遠鏡のアイピースを通して、月や木星の姿を覗こうと挑戦したが、残念ながら天候の影響もあり、調整がうまくいかず叶わなかった。星を見てみたいと思う気持ちはみんなが持っていること、実際の星空を眺める観望会はこういう人にも良いきっかけになることを改めて感じた。また、次の機会があれば今度は星の姿を見せてあげたいとの思いを強くした。
- ・季節に応じて、当該商業施設で観望会を実施しているが、このようなごく一般の方に、天体望遠鏡を通して、実際の天体を眺める機会を設けていることは天文への関心の底上げに非常に貢献できていることは間違いない。
- ・単に天体望遠鏡を見てもらうだけでなく、当日の星空の様子や最近の天文情報を盛り込んだ資料も配っており、日を改めても資料を見返すことで少しでも天

文知識を増やしてもらうことに役立っている。(報告書原文)

助成額 : 1件 38,513円

⑧ 事業名:「七夕星まつり・スターウィーク特別夜間観望会」

主催者 : 尾鷲市立天文科学館

実施日 : 2020/8/7

実施場所: 尾鷲市立天文科学館

参加者数: 43人

開催報告: 尾鷲市立天文科学館では、小中学生に星や宇宙に興味を持ってもらいたいことや親子で天体観望をしてもらいたいことを趣旨に、今年も同イベントを実施いたしました。今年度は当初の開催予定日7月31日が天候に恵まれなかったため、スター・ウィーク特別観望会最終日8月7日にファイナルイベントとして開催いたしました。

同イベントは、開館以来、毎年実施しています。今年はコロナウイルスの影響により参加者は43名と少な目でしたが、ゲームを通して楽しみながら星の学習や木星の観察等、星の観望を体験するよい機会となりました。(報告書原文)

助成額 : 1件 50,000円

⑨ 事業名:「第18回 広島星まつり～100点満天の夏休み～」

主催者 : 日本宇宙少年団広島分団

実施日 : 2020/8/22

実施場所: 道の駅「湖畔の里 福富」(東広島市福富町)

参加者数: 35名

開催報告: 第1部: 手作り天体望遠鏡工作(倍率の高い国立天文台望遠鏡キットを使用した為、良く見え感動して頂いた。また、助成金のおかげで参加者のキット代金を無料にでき喜ばれた。

第2部: 公開天文講演会「ハヤブサ2の持ち帰るもの」ーリュウグウの玉手箱ー(前国立天文台長・広島大学特任教授 観山正見先生のお話しが大変わかりやすく来場者も興味深く質問をされていた。)

第3部: 公開天体観望会・天体望遠鏡体験会(かなり激しい雷のため危険性があり中止)

(報告書原文)

助成額 : 1件 60,000円

⑩ 事業名:「スター・ウィーク2020キャンペーン(ポスター及びポストカードの配付)」



主催者 : スター・ウィーク実行委員会

実施期間 : 2020/7/19~2020/8/7

参加団体 : 54団体

開催報告 : 今年度ははCOVID-19の影響で配布手段としていた会合・研究会がすべて中止

(延期) となったことからポスターの郵送配布をweb上で募集することを企画。同デザインのポストカードを制作し同じく配布対象とした。(ポスター1部・ポストカード25部) 配付申込期間は7/19-8/7とし、最終的に36の公開天文台・科学館施設と18の学校・天文同好会・NPO法人等の団体から申込みを受けた。ポストカードは追加発送の依頼もあり、外出自粛下での需要を感じた。またSNSでポスターデザインが好評だったため、Twitterを利用したプレゼントキャンペーンを実施。ポスター及びポストカードと同デザインの試作缶バッジセットを抽選で10名にプレゼントした。結果としてはアカウントのフォロワーが100近く増加、期間中のイベント「掲示板・いま星を見えています」への参加誘導に効果をもたらした。

ポスター・ポストカードは国立天文台内の4D2Uシアター、三鷹駅前の天文科学情報スペースでも掲示、配布をおこなった。

また、初日の8/1はフジTV系全国ネット「土曜はナニする!？」のトピック「HOTけないワード」にてスター・ウィークが取り上げられ、実行委員長の飯山と副委員長の古屋が番組に出演した。(報告書原文)

助成額 : 1件 13,310円

## [2] 第2回公募

① 事業名 : 「イミロア天文学センターのコロナ禍で影響を受けている児童・生徒に対する新しい学術教育普及活動」

申請責任者 : マーガレット シバ (ハワイ大学ヒロ校 イミロア天文学センター Director Of Institutional Advancement)

実施期間 : 2020年10月~2021年3月

実施場所 : イミロア天文学センター (アメリカ ハワイ州ヒロ)

参加者数 : 児童生徒184名、教員・付き添い約50名

開催報告 : コロナ禍で、参加した児童生徒の安全衛生対策を連邦及び州政府の規定に厳密に従う形で行ったため、参加人数を例年よりかなり限定して行われ、ハワイの文化や天文学を含む科学技術について、新たに購入した電子顕微鏡や児童生徒間の距離を一定に保つため、臨時に設けたテントなども使って、イミロアのプラネタリウムや屋外庭園など、「イミロア」の教育ツールも最大限に活用しながら実施された。そして、ハワイの言語や文化、科学、芸術について、工芸品作りや、ゲーム、屋外探索、観察などを通じて、参加した児童生

徒に学んでもらった。また雲の形成や月と太陽の位置などの観察なども実際に行ってもらったり、科学者や専門家と対話する機会を設け、将来の自分たちのキャリアについても考えてもらった。（報告書原文）

助成額 : 1件 1,000,000円

② 事業名：「フラッシュスペクトルの保存と撮影法の普及・啓発」

申請責任者：日江井 榮二郎

実施期間 : 2020年10月～2021年6月（継続中）

途中報告 : 高精細フォトスキャンナーを用いて、1958年スワロフ島日食および1962年ペルー日食で取得されたフラッシュスペクトル(35mmx 400mm)のフィルムをデジタル化し、データとしてアーカイブに保存し、公開する事業を行っている。

本事業は東京天文台時代から観測された日食データとして保存し、皆既日食時のフラッシュスペクトルの観測法、並びにその意義をアマチュアや大学生などに伝える役割を持つ。今回の事業の継続として、国立天文台に残されているその他の貴重な日食データもアーカイブとして残す。（報告書原文）

助成額 : 1件 304,270円

③ 事業名：「おうちでダジック オンライン」

申請責任者：萩野 正興（日本スペースガード協会 研究員）

実施期間 : 2021/2/19～2021/3/22

実施場所 : オンライン 動画配信サービスYouTube ダジック・アースチャンネルにて

成果報告 : 大型の球に天体を映し出し立体的に見せて行うデジタル地球儀で、天体を投影する方法がダジック・アースである。一方、「おうちでダジック」はこのダジック・アースの教育現場や家庭への浸透を目指す教材である。

昨年度まで本助成を受け教材開発と出前授業を行ってきたが、コロナ禍の影響で新しい時代の形式であるオンライン配信授業への転換を図った。本事業では天文普及のための動画作成に必要な機材等を調達し、YouTubeでの動画を公開した。

助成額 : 1件 320,000円

[2] 第3回公募

① 事業名：「天体観察会（一般市民向け観望会）」

「楽しい宇宙と望遠鏡講座（大人向け講座）」

「梅田の天文、宇宙講座（外部講師による講座）」

申請責任者：樺山 淳司（関西で星を学ぶ会 代表）

実施期間 : 2021/4～2021/6 (継続中) ①2021年4月24日

実施場所 : 大阪府大阪市 (予定) ①大阪市住吉区

参加者数 : ①受講者7名、スタッフ4名

途中報告 : (4/24) 市民講座『楽しい宇宙と望遠鏡講座』(望遠鏡の基本を学ぼう)

「望遠鏡の基本を学ぼう」と題して講座を開催した。望遠鏡の「鏡筒の違い、架台の違い、脚の違い、基本性能の違い、天体望遠鏡と双眼鏡の違い望遠鏡の基本操作を学習して初心者向け望遠鏡とベテラン向け望遠鏡を知ることができました。野外に出て天体望遠鏡で星を見る喜びを実感してもらえました。(報告書原文)

助成額 : 1件 30,980円

### 3. 研究業績等の表彰事業の概要 (公2)

令和2年度から新たに定款第4条に公益目的事業として追加した研究業績等の表彰事業を展開しました。

令和2年度は、[1]古在由秀賞では、7件の応募の中から受賞者(1件)を選考いたしました。[2]吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞では、4件の応募の中から受賞者(1件)を選考いたしました。各賞の受賞者は以下のとおり。

#### [1] 古在由秀賞

##### (1) 受賞者

・田中 雅臣 (東北大学 大学院理学研究科 天文学専攻 准教授)

##### (2) 受賞題目

・「重力波天体からの電磁波放射と重元素の起源に関する研究」

#### [2] 吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞

##### (1) 受賞者

・栗田 光樹夫 (京都大学 准教授)

##### (2) 受賞題目

・「望遠鏡の軽量化と新しい自由曲面の計測手法の開発」

### 4. その他の事業

① 賛助会員企業向け国立天文台 三鷹キャンパス特別見学会

コロナ禍の影響により、国立天文台 三鷹キャンパス自体で一般見学中止措置が取られたため、夏休み期間中に開催を予定していた賛助会員企業従業員とその家族を対象とした特別見学会も中止せざるを得なかった。

② 賛助会員企業への出張講演会

コロナ禍の影響により、賛助会員企業からの出張講演会開催希望がなかったため、令和2年度は開催なし。

以上